

令和元年度 学校自己評価・学校関係者評価委員会に係る評価結果報告

下記の通り、学校評価について報告いたします。

学校法人朋友学園 四国総合ビジネス専門学校 校長 岡本哲夫

	評価項目	評価 4段階	自己評価結果・改善方策等	学校関係者評価委員会 結果・質疑・意見 等
1	教育理念・人材育成	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育方針や努力目標は、学校要覧にも明文化され公表して、それに向けて最大限の努力をする。 多様な生徒に対して社会や業界のニーズに合った人材育成に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 適正な評価であり特に問題はない。 学校も特色をもっとPRしてほしい。
2	学校運営	B	<ul style="list-style-type: none"> 法人として運営方針を定め適正に運営されている。 各種事業計画に新たな企画を取り入れ、多種の校務に従事している。 チームワーク良く運営に協力する。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年間を見据えたカリキュラム、シラバスを設定し、資格取得率も向上した。 学生に対する授業アンケートの結果を踏まえ、改善に努力している。
3	教育活動	B	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのコースごとに2年間のカリキュラムを設定し、検定・資格取得に向けて計画的に指導した。資格取得率も上昇した。 成績評価、認定等については学則で定め周知した。 授業アンケートの実施により結果を分析し取組方法や改善策をさらに検討した。 	<ul style="list-style-type: none"> 検定受験への意欲の乏しい学生に対する指導の強化に期待する。 奨学金や特待生奨励金制度の支援体制を今後も整えて欲しい。
4	学修成果	B	<ul style="list-style-type: none"> 就職は早い段階から面談を重ね、適切なアドバイスにより高い内定率を得た。 資格取得指導は、計画的に行われ概ね希望した資格・検定取得を達成した。 さらに上位級取得を目指し効果も出た。 	
5	生徒支援	B	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な就職会議や連絡により生徒への支援体制は機能した。 希望する生徒に対しての奨学金や特待生奨励等経済的な支援体制を整えている。 若干の卒業生が進路相談に来る程度である。 授業料等、遅延による生徒は事務、担任から保護者へも連絡し全員が完納した。 	

6	教育環境	B	<ul style="list-style-type: none"> 必要なソフト面、ハード面は概ね対応でき、パソコン等も順次更新している。 入社前研修先でミスマッチが生じ、新たな企業の確保に向けて努力した。 防火、防災訓練、AED操作法を定期的に計画し所轄消防署の指導により実施した。また、浸水害、地震時の避難経路を追加した。 設備等についても点検により修繕、更新済みである。 	<ul style="list-style-type: none"> 適正な評価であり、特に問題はない。 入社前研修でミスマッチが生じた学生へのフォローが重要だ。 入学者数が年度により変化がある。定員に達するよう理由を分析して欲しい。 今後も自己評価を実施し、公表をしてもらいたい。
7	生徒の受け入れ状況	B	<ul style="list-style-type: none"> 広報部を中心に様々な取り組みを実施しているが成果が出ていない。 社会情勢からか、高校卒業生・社会人入学生は少なく、厳しい状況が続いている。 納付金は負担軽減を考慮し、分割納付、特待生制度の充実や支援体制を検討中。 	
8	財務	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒数が定員を満たしておらず、生徒納付金収入が不足した。 財政基盤の安定を図るため生徒数、求職者支援訓練生の確保が必要である。 工夫しながら収支のバランスを確保した。 	
9	法令等の遵守	A	<ul style="list-style-type: none"> 関係規則、諸規定は明文化され遵守された。 個人情報に関してもきちんと対応した。 自己評価の実施により分析し、取り組みや改善策を検討した。 	
10	社会貢献・地域貢献	B	<ul style="list-style-type: none"> 求職者支援訓練生を定期的に受入、講座を開設するなど社会貢献をした。 各種検定試験会場として校舎を開放した。 ボランティアについては、協力依頼があれば周知、掲示する程度である。 	